

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和4年度第2回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和4年10月5日(水) 至 11時30分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：山口委員、長橋委員、北川委員、内田委員、山元委員、澤村委員、 矢野委員、出呂町委員、武田委員、佐藤委員 事務局：藤田教育長、増田部長、田中総括副部長 図書館 二井館長 生涯学習課 上原課長、廣政課長補佐、井上主任 傍 聴 人：0名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. <<教育長挨拶>>

2. <<自己紹介>>

3. <<委員長・副委員長選出>>

委員長:山口洋典委員

副委員長:長橋聡委員 に決定

4. 議事

1) 社会教育委員会議について

資料1-1 資料1-2 により事務局から説明

2) 今期のテーマおよび本日の論点について

資料2 により事務局から説明

《委員意見および質疑》

A委員

「若者」はどこまでを対象として想定しているのか。大学生までか、子育て世代や現役世代も含まれているのか。

事務局

若者というと、施策によっては30歳まで、39歳までなど明確に定義されるものもあるが、この会議ではそこまで明確に定義はしていない。大学生の方にも子育て世代、現役世代の方にも参加してほしいと思っている。

B委員

各地域のまちづくりセンターは日々努力して、私の地域でもいろいろな人が活躍できる舞台を整えていっている。今期は読書ボランティアの養成をおこなっていくということであるが、是非各地域のまちづくりセンターに人を繋いでいくという視点を持って事業に取り組んでほしい。

委員長

地域の各学区にも様々な事情があるので、それぞれの現場に合わせた調整を行いながら地域と繋がっていくことが大切だと思う。このように、委員の皆さんからのお誘いもいただきながら、事業を進めていきたい。

C委員

先日草津商工会議所の50周年記念の教育に関する講演会に参加した。講演の中でSTEM教育（S=science 科学 T=technology 技術 E=engineering 工学 M=mathematics 数学）やSTEAM教育（STEM教育にA=art 芸術を加えたもの）が取り上げられており、学校教育において今までは、いわゆる“IT”を高めるような教育が目指されてきたが、AIの登場によってITを高めるよりも自立した子どもたちを育てるために人間指数を高める教育に展開していかなければならないというお話だった。社会教育においても同様で、自立した学習を求めていかなければならないのだと思う。そのためには、読書ボランティアさんが活動したり、地域に受け入れをお願いするときも、「それはなぜ大事なのか」という点を1人でも多くの市民の方や、協力してくださる方々と共有していくことが大事だと思う。

委員長

子ども達に読み聞かせを行うという活動も大事だが、読書ボランティアの活動を通じて何がもたらされるのか。そうした意味や意義について理解や共通認識がないと、中身だけに興味が向いてしま

い、読書を通じて目指す姿がぼやけてしまう点へのご指摘をいただいたと捉えている。本質という大げさだが、これこそが大事と誰もが説明ができる状態にしておく必要がある。

D委員

私の活動は子どもが通っていた小学校の学校図書館ボランティアという形から始まったもので、深い考えがあって始めたことではないが、学校図書館ボランティアの活動を続けたり、地域での役員などを経験していく中で、地域で場づくりが必要なことに気づいた。そして、本や絵本を活用して、その場づくりができればと思って現在もいろいろな活動を続けている。今年度も読書ボランティアの養成講座を実施されるとのことなので、修了生の受け皿としてもお手伝いできればと思っている。

委員長

Dさんがおっしゃった「場づくり」は一連の活動で極めて大事で、読書の空間にどういう時間が流れるのか、そこにいる人々とどんな時間を共有するのか、活動における核となる価値を形作ることになる。例えば本や絵本に触れる空間によって、その本の世界に浸り、そこにいない作者やそこにいない誰かに繋がっていく場ができる。そうした絵本を通じたコミュニティづくりの実践が重ねられていくことを期待している。

A委員

私も子育て中だが、実感として子ども達への親の接し方が二極化していると思う。子どもの教育に興味がある親は、読み聞かせやいろいろなイベントに積極的に参加するが、そうでない親はほとんどそうでない。お休みの日に子どもにYouTubeをずっと見せている親もいると聞く。

子ども達も子ども達で、公園で遊ぶことも減ってきていて、オンラインゲームで繋がってそれをずっとやり続けている子も多い。また、公園に子どもと遊びに来ている親も、子どもは遊んでいるけど親はスマホを触っているという様子もよく見る。そう思うと、C委員がおっしゃったように、「なぜ大切か」を伝えていくことはすごく大切だと思った。

また、読み聞かせに関していうと、わざわざ読み聞かせに行くというのはちょっと面倒と感じる人が多いと思う。買い物に行ったついでとか、ふらっと気楽に参加できる場があると良いと思う。

E委員

私もいろいろと活動を行っているが、若い方の参加や後継者づくりは課題であると実感している。

子育て世代を対象にして子育てサロンを毎月実施しているが、参加者に一緒に企画してサロンの運営をしませんか、と声をかけたこともあったが、賛同者はいなかった。もちろん日々忙しいということもあると思うが、運営側に回ることはかなりハードルが高いようで、ボランティアの方を増やしていくことも大切だが、そのボランティアのなかから、核になって活動を支えたり、後継者になってくれるような人を育てていくことも課題であると思う。

C委員

若いボランティアを増やしていくという観点も大事だが、人生100年時代といわれる中、年齢で区切らない考え方も必要かもしれない。多様な生き方の中で、例えばたまたま早く結婚したとか、遅く結婚したとか、子どもの人数とか、収入とか、その人の様々な環境によって余裕のある時期は異なってくると思うし、余裕のある人が余裕のないひとを助けるというか、年齢に限らず何かしたい人の想いを発揮できる場所を作っていくことが大切なのかなと思う。

F委員

読書ボランティアの受入先でいうと、子育てサロンや学童(児童育成クラブ)がある。特に学童では、夏休みなど長期休暇中にいろいろな活動を計画されるので、長期休暇のまえに案内を行うと受け入れやすいと思う。また、最近子ども達と関わっていて、言葉やお話をあたまで想像する力が昔と比べて弱くなってきているのではと感じる。子ども達は普段の生活の中や学校でも視覚で理解する、ぱっとみてわかることに慣れすぎていることも原因だと思っている。そういう観点でも、絵本や読み聞かせは子ども達の想像力を養えるツールであると感じている。

G委員

私は大学生で子ども達と関わる活動をしているが、普通の大学生からすると地域のコミュニティに入って、活動して、、、というハードルが高い。小さなきっかけがあったり、フラットに参加できる環境があったりすると大学生でも高校生でも中学生でも参加しやすいのかなと思う。

委員長

募集するだけでなく、やる気のある個人を誘いながら、多様な方が地域に参加するきっかけを作っていくことも大切である。誰かに任せただけでなく、自分でも何かできることがあるかもしれない、と地域の方々が感じていただける機会が幅広く生まれることを願っている。

H委員

皆さんの意見を聞きながら、興味の薄い層に情報を届けることの難しさを痛感した。

自分は子育てとして絵本や読み聞かせは大事だという意識があり、昨年養成講座にも参加したが、友達のお母さんに話してみても、参加した人はいなかったし、知っている人も少なかった。草津市では広報くさつで毎月いろいろな情報を発信されている。自分は毎月読んでいるが、全く見ていない市民も多いと思う。また、子どもが小学校に通っているが、以前と比べてお迎えに行くお母さんの数が減っていて、学童に通う子ども達は増えていて、共働きの世帯が増えているようである。みんな忙しいなかで、子育てをしている。子どもを読み聞かせにも連れていきたいけどいけない人、そもそも連れて行こうと思わない人、いろいろいると思うが、まずは知ってもらう事から初めていけないといけないと思う。

副委員長

皆さんの御意見を聞いて、私なりに2点の感想を持った。まず1点目、若者のボランティアを増やしていくこととその育成について。ひとくくりに若者といっても範囲が広いことが今日の議論のなかで分かったと思う。その多様な“若者”にひとくくりに一緒にまちづくりをしましょう、と訴えていくのは難しい。中・高・大学生、子育て世代、現役世代など若者の幅も多様であるし、それぞれの生活スタイルなどを想定したりしながらアプローチしていく必要がある。そのうえで、いきなり講座に入ってもらうだけでなく、絵本から入ってボランティアへの道筋をつけるみたいな形もあり得るかもしれない。もう1点は、子ども達の教育にとって読書や絵本の持つ意味合いについて。STEM教育やSTEAM教育という言葉も出てきたが、読書や絵本はいろいろな教育の根っこになるものだと思っている。すなわち、子ども達の心を育てるものだと思っている。大正～昭和にかけて教育学の分野で活躍した城戸幡太郎は「教育は文化を血肉にする」と言っているが、Society5.0といわれる時代だからこそ、社会で共有されてきた価値観や美徳を育てていく必要があって、その方法として読書や絵本を位置付けることができるのではないかと考えている。

委員長

資料2に養成講座の日程が示されている。可能な限り、本委員会の委員もオブザーバーとして参加してはどうか。結果として受講生の継続的な活動への背中を押すことも出来るといい。事務局には必要に応じて講師や参加者の方々と調整をお願いしたい。

5. 報告事項

次年度の近畿地区社会教育研究大会について事務局から説明。

以上